

【授業科目名】 基礎演習Ⅱ (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 保育科専任教員		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 60回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・通年
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 基礎演習Ⅰで修得した保育者として必要なコミュニケーション力を基に、保育者としての専門性、知識、技能が更に向上できるよう、卒業生や保育所長、幼稚園長等から、現場における仕事内容を聞き、社会人としてどうあるべきかを考え、就職活動への意識を高める。プレゼンテーションに必要なスキルを身に付けることができる。				
【授業の到達目標】 1. 建学の精神それに基づく「教育目標」、学院の歴史について理解を深める 2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を活かし発表する力を培う 3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を基に社会人として必要なコミュニケーション力を身に付ける 4. 社会で活躍するための、キャリア形成の能力を身につける				
【授業計画】 第1回：授業計画Ⅰの振り返り 基礎演習Ⅱとは 第2回：働く意味について考える（仕事や働き方を選ぶ基準について理解する） 第3回：就職活動について理解する 第4回：校外学習に参加する（保育現場での引率実習） 第5回：なりたい自分を創る（自分が大切にしていることが何かを把握する） 第6回：保育現場で活躍する卒業生（現任保育者）との交流会に参加する 第7回：職種について理解する（1）自分の生活との関わりから職種を理解する 第8回：職種について理解する（2）職業の意味と多様性について理解する 第9回：社会に出てから必要な力を養う（1）聴いて理解する力（保護者対応等） 第10回：社会に出てから必要な力を養う（2）話して自分を伝える力（話し言葉・電話対応等） 第11回：社会に出てから必要な力を養う（3）書いて自分を伝える力（保育事務・教育事務） 第12回：協働するために必要な能力を養う（1）言葉での意思疎通（報連相） 第13回：ゲスト・スピーチから学ぶ 第14回：協働するために必要な能力を養う（2）コミュニケーション力（TPOをわきまえる） 第15回：協働するために必要な能力を養う（3）論理的思考と表現 第16回：就職活動について 保育現場で活躍する卒業生（現任保育者）との交流会に参加する 第17回：社会人に必要なルールマナーについて理解し、身につける 第18回：社会人として必要な能力について理解し、どのように身につけていくかを考える 第19回：保育士資格の登録手続きを行う 第20回：幼稚園教諭二種免許状の取得手続きを行う 第21回：保育現場の管理職から話を聞き、保育者に必要な資質能力を確認する 第22回：保育者を目指す自分を振り返りこれからの課題を立てる 第23回：信頼される保育者に必要な立ち居振る舞いを習慣化する（1） 第24回：信頼される保育者に必要な立ち居振る舞いを習慣化する（2） 第25回：プレゼンテーションの基本スキル「知へのステップ」 第26回：わかりやすいプレゼンテーションのために「知へのステップ」 第27回：保育技術について考える（1）				

第28回：保育技術について考える（2）

第29回：社会人基礎力について理解する

第30回：まとめ・振り返り

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

「知へのステップ」学習技術研究会　くろしお出版　974874247891

「保育のマナーと言葉」長嶋和代　わかば社　9784907270353

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説

【評価の方法】

定期試験 50%　提出物　50%

【授業科目名】 子ども家庭支援論 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 藤井 和子		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・後期
【授業の概要】 家族・家庭の意義を把握し、子育ての場としての家庭が抱える不安、課題や子どもの人格形成に影響を与える大人の関わり方について理解し、保育者としての保護者支援、家庭支援の在り方についてグループワーク、ディスカッションをして理解を深める。				
【授業の到達目標】 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できている。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できている。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解できている。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できている。				
【授業計画】 第 1回：子ども家庭支援の意義と必要性 第 2回：子ども家庭支援の目的と機能 第 3回：保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 第 4回：子どもの育ちの喜びの共有 第 5回：保護者および地域が有する子育て支援 第 6回：保育者に求められる基本的態度 保護者との信頼関係 第 7回：多様な家庭の現状と状況に応じた支援 第 8回：子育て支援施策・次世代育成支援施策の推移における自治体・関係機関等との連携・協力 第 9回：子育て家庭の福祉を高める地域の社会資源 第10回：保育所を利用する子どもの家庭への支援 第11回：地域の子育て家庭への支援 第12回：要保護児童等及びその家庭に対する支援 第13回：低所得世帯の児童や家庭に対する支援 第14回：等別な配慮を要する児童や保護者に対する支援 第15回：子ども家庭支援に関する現状と課題 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 適宜資料を配布する				
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 子どもと保護者に寄り添う 子ども家庭支援論 実践 子ども家庭支援論 ななみ書房 子ども家庭支援論 子どもが子どもの生活をするために 萌文書林				
【評価の方法】 定期試験50% 課題提出 50%				

【授業科目名】 保育者論 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 阪本 満		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・前期
【授業の概要】 保育全般にわたる基礎的な内容・保育にかかわる今日的課題を踏まえ、保育者に求められる専門性について理解するとともに、自らが目指す保育者像を明確にし、保育者になるという自覚と意欲を高める。				
【授業の到達目標】 ①保育者の役割と倫理、制度的な位置づけについて理解する。 ②保育者の専門性について考察し、自分の意見を述べるができる。 ③保育者同士あるいは職場外のさまざまな職種・機関との連携・協働と、保育者の力量・キャリア形成の関係について理解する。				
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 保育者とは？ 第 2回：保育者になりたいと思った理由 第 3回：保育という仕事の本質・特質を考える 第 4回：保育の免許と資格・保育者の現状 第 5回：子どもの思いや育ちを理解する仕事① 知るとわかる 第 6回：子どもの思いや育ちを理解する仕事② 内面と発達を捉える 第 7回：遊びにおける保育者の役割① 第 8回：遊びにおける保育者の役割② 第 9回：豊かな文化や自然との出会いをつなぐ保育者 第10回：個と集団を活かす保育者 第11回：関連機関や地域との連携を行う保育者 第12回：保護者や家庭と一緒に歩む保育者 第13回：学び合う保育者① 同僚性 第14回：学び合う保育者② 自己研鑽と成長 第15回：まとめ 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 新しい保育講座2 保育者論 汐見稔幸・大豆生田啓友（編著） ミネルヴァ書房 ISBN 9784623083329				
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説等 その他の必要資料は授業内配布				
【評価の方法】 定期試験60%、提出物40%				

【授業科目名】 子ども家庭支援の心理学 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 阪本 満		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・後期
【授業の概要】 子育て家庭への支援について理解を深めるため、乳幼児期からの生涯発達を心理学の観点から概観する。また、家族・家庭の意義や機能及び子育て家庭をめぐる社会的な状況と課題をとらえ、保育者として必要な知識を習得する。				
【授業の到達目標】 ①乳幼児期からの生涯発達について、心理学の観点から基礎的な事項を理解する。 ②家族・家庭の意義や機能を知り、親子関係や家族関係について理解を深める。 ③子育て家庭の現代的な課題を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ④子どもの精神保健とその課題を学ぶ。				
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 家庭支援と子どもの発達理解について 第 2回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり① 0歳児 第 3回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり② 0歳児 第 4回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり③ 1歳児 第 5回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり④ 2歳児 第 6回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり⑤ 3歳児 第 7回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり⑥ 4歳児 第 8回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり⑦ 5歳児 第 9回：児童期・青年期の発達の特徴と課題 第10回：成人期・老年期の発達の特徴と課題 第11回：保育を通しての子どもとのかかわり エピソードから読み解く 第12回：最新の保育事情から乳幼児の発達について考える 第13回：子どもを取り巻く生育環境・社会的状況 第14回：家族の意義・親子関係の理解 第15回：まとめ 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 事例で楽しく学ぶ 子ども家庭支援の心理学 芝野松次郎（編集代表） 中央法規 ISBN 9784805888438				
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針解説等 その他の必要資料は授業内配布				
【評価の方法】 定期試験60％、授業ワークシート等の提出物40％				

【授業科目名】 健康(指導法) (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 岩崎 巧		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・前期
【授業の概要】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」のねらいと内容および内容の取扱いについて理解し、健康な心とからだを育て、健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技能を身につける。幼児の発達に即した心身の発達の理解とともに、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身につける。				
【授業の到達目標】 幼児教育における「健康」について、こころとからだの発達、社会性の視点から概観したうえで、それぞれの発達段階について正しい理解を深める。また運動遊びの観点から指導案の作成及び実践を行い、保育者としての必要な技能を習得する。 (1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」のねらい及び内容を理解している。 1) 乳幼児期のこころとからだの発達を理解している。 2) 発達の特性や基本的生活習慣の確立の重要性について理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (2) 乳幼児期のこころとからだの発達の特性を理解し、具体的な指導場面に対応した保育計画の構想及び立案をすることができる。 1) 乳幼児期のこどもを対象とした保育指導案の立案と展開および評価ができる 2) 領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器の活用について理解し、保育構想に活用することができる。 3) 模擬保育実践と振り返りを通して客観的な視点で保育を捉えることができる。				
【授業計画】 第 1回：「健康」の定義と乳幼児における健康とは 第 2回：子どもの育ちと領域「健康」 第 3回：領域「健康」と他領域との関連および小学校との連携 第 4回：こどもの健康とあそび 第 5回：基本的生活習慣の獲得に向けた指導と援助（食事、排泄、着脱衣等） 第 6回：健康なこころとからだを育む保育の構想1（教材研究） 第 7回：健康なこころとからだを育む保育の実践1（保育実践） 第 8回：健康なこころとからだを育む保育の構想2（教材研究・計画立案） 第 9回：健康なこころとからだを育む保育の実践2（模擬保育） 第10回：模擬保育実践の振り返りと評価 第11回：多様な動きの経験を促す遊びと援助（教材研究・計画立案） 第12回：多様な動きの経験を促す遊びの実践1（模擬保育） 第13回：多様な動きの経験を促す遊びの実践2（模擬保育） 第14回：模擬保育実践の振り返りと評価 第15回：授業のまとめ 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康』・無藤隆(監修)・萌文書林 ISBN:9784893472564				

【参考書・参考資料等】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館・内閣府、文部科学省、厚生労働省

【評価の方法】

授業内課題（ワークシート） 50% 課題発表 30% 最終課題 20%

【授業科目名】 人間関係（指導法） （保育分野における実務経験のある教員による授業科目）		【担当教員名】 吉田 しのぶ		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・後期
【授業の概要】 幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させ「人とのかかわりあう力」を豊かにする保育、保育者の役割やその指導法への理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。				
【授業の到達目標】 （1）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 1）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2）領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4）幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。 （2）幼児期の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 1）幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。 2）領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。 3）指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4）模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5）領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。				
【授業計画】 第 1 回：幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ 第 2 回：教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方 第 3 回：自立心を育む援助 第 4 回：友達との遊びを楽しむ中で多様な謙譲を経験し、自他の気持ちに気付く援助の在り方 第 5 回：自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方 第 6 回：きまりをめぐる様々な幼児期の葛藤と援助 第 7 回：ルールのある遊びと援助 第 8 回：個の育ちと集団の育ちを考える 第 9 回：協同的な遊びの中で、育ち合う長期的な保育の展開を考える 第10回：幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える 第11回：幼小の交流活動を考える 第12回：小学校以降の生活で生かされる力				

第13回：地域の中の幼稚園

第14回：多様な人、多様な子どもとの関わりの中で、豊かに生きる子どもへ

第15回：領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

適宜、資料・プリントを配布する

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説                      保育所保育指針、保育所保育指針解説

幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【評価の方法】

・定期試験    60%                      課題・ワークプリント等    40%

【授業科目名】 環境（指導法） （保育分野における実務経験のある教員による授業科目）		【担当教員名】 清山 莉奈		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・後期
【授業の概要】 事例の検討を通じて、保育における物的環境、社会的環境、自然環境等に関する専門的知識を活用した保育の実践について学ぶ。実践を通じて、乳幼児や保育を取り巻く社会的状況や領域「環境」に関わる最新の知見を踏まえた保育実践の計画、実践、記録、評価、改善について理解を深める。				
【授業の到達目標】 1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点、幼稚園教育における評価の考え方、領域「環境」に関わる経験と小学校以降の教科等とのつながりについて理解している。 2. 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解し、指導案を作成し模擬保育とその振り返りを通して保育を改善する視点を身につけている。 3. 領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法、現代的課題、保育実践の動向を理解し、保育構想に活用することができる。				
【授業計画】 第 1回：乳幼児教育の基本と領域「環境」 第 2回：乳幼児教育の計画、実践、記録、評価、改善—よりよい保育経験を保障するために— 第 3回：ものとかかわりを支える保育の実際—遊び込む乳幼児、プロジェクト型保育— 第 4回：社会とかかわりを支える保育の実際（1）：標識・文字、生活に関係の深い情報や施設、地域の伝統文化への関心や親しみ 第 5回：社会とかかわりを支える保育の実際（2）：社会の一員としての子ども、市民性の育ち 第 6回：自然とかかわりを支える保育の実際—植物、動物、土・砂・泥、季節等とかかわる時間、場、自由の保障— 第 7回：数量・図形等への関心や科学性の芽生えを促す保育の実際—遊びの継続と深化— 第 8回：乳幼児期の思考力の芽生えを育む活動（1）：指導計画立案（情報機器を活用した保育の構想） 第 9回：乳幼児期の思考力の芽生えを育む活動（2）：指導計画立案（情報機器を活用した保育の構想） 第10回：乳幼児期の思考力の芽生えを育む活動（3）：模擬保育と記録（情報機器を活用した実践の記録） 第11回：乳幼児期の思考力の芽生えを育む活動（4）：模擬保育と記録（情報機器を活用した実践の記録） 第12回：乳幼児期の思考力の芽生えを育む活動（5）：実践の省察と改善 第13回：乳幼児期の思考力の芽生えを育む活動（6）：実践の可視化（情報機器を活用したドキュメンテーションの作成） 第14回：領域「環境」と小学校教育のつながり 第15回：環境における現代的課題（持続可能な開発のための教育（ESD）等） 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 幼稚園教育要領解説（文部科学省） フレーベル館 9784577814475				
【参考書・参考資料等】 新・保育環境評価スケール①（3歳以上）テルマホームス他著 埋橋玲子訳 法律文化社 子どもの姿ベースの新しい指導計画の考え方 無藤隆・大豆生田啓友編著 フレーベル館 子どもと保育者でつくる育ちの記録—あそびの中の育ちを可視化する— 北野幸子・大阪府私立幼稚				

園連盟第26次プロジェクトメンバー著 日本標準

学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～ 高山静子著 小学館

【評価の方法】

定期試験（50％）、模擬保育（指導案・保育実践・記録・ドキュメンテーション）（40％）、  
提出物（10％）

【授業科目名】 言葉（指導法） (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 藤田 千波		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・前期
【授業の概要】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「言葉」の領域のねらいや内容について理解を深め、保育者として適切な言葉の指導や援助の方法を学ぶ</li> <li>・ 保育者の言葉がけや援助を、映像資料や事例等から、子どもの具体的な姿とともに理解する</li> <li>・ 乳幼児がどのように言葉を獲得していくのかを知り、言葉の発生と発達の過程を年齢別に学ぶ。</li> </ul>				
【授業の到達目標】				
<p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</li> <li>2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。</li> <li>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</li> <li>4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</li> </ol> <p>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</li> <li>2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育の構想に活用することができる。</li> <li>3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</li> <li>4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。</li> <li>5) 領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</li> </ol>				
【授業計画】				
第 1回：保育における「言葉」とは：言葉をめぐるワークショップ				
第 2回：領域「言葉」と保育内容：保育内容を示す領域「言葉」のねらいや内容の考え方について				
第 3回：領域「言葉」と保育内容：乳幼児の言葉の発達と条件				
第 4回：領域「言葉」と保育内容：言葉の機能				
第 5回：言葉を育てる人的環境：言葉による伝え合いを育む援助				
第 6回：発達段階に応じた保育実践：言葉遊びと絵本の読み聞かせの実際				
第 7回：書き言葉への興味や関心：文字を読む前段階としての、文字に出会える環境構成について				
第 8回：配慮を必要とする子どもの言葉：言葉の発達が気になる子どもの保育				
第 9回：子どもの言葉を育む保育の実際：模擬保育に向けての教材研究				
第10回：子どもの言葉を育む保育の実際：指導案の作成（ICTを活用して指導案作り）				
第11回：子どもの言葉を育む保育の実際：模擬保育（ICTを活用して写真撮影等）				
第12回：子どもの言葉を育む保育の実際：模擬保育（ICTを活用して写真撮影等）				
第13回：子どもの言葉を育む保育の実際：模擬保育の振り返り				
第14回：領域「言葉」と小学校教育との連携：学びの芽生えとスタートカリキュラム				

第15回：まとめ：子どもの言葉を育てる指導  
定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

子どもの姿からはじまる領域・言葉、秋田喜代美・三宅茂夫（株）みらい 9784860155261

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【評価の方法】

定期試験 50%、 授業課題(提出)・発表 50%

【授業科目名】 保育内容総論 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 藤井 和子		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 30回	【単位数】 1単位	【開講学年・時期】 2年・前期
【授業の概要】 養護と教育が一体となって展開される保育の基本について学び、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえて、具体的な保育のねらいと内容を考えるための基礎的な力を養う。				
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解できる。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できる。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の課程（計画・実践・記録・省察・改善）につなげて理解できる。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解できる。				
【授業計画】 第 1回：保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する 第 2回：保育内容の歴史の変遷と社会的背景を学ぶ 第 3回：子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的考え方 第 4回：養護及び教育が一体的に展開する保育について学ぶ 第 5回：子どもの主体性を尊重する保育の展開を学ぶ 第 6回：養護と教育が一体となった保育を展開するための環境構成を考える 第 7回：生活の連続性を踏まえた保育の展開を考え、指導計画を作成する 第 8回：模擬保育を行い、個と集団の発達を踏まえた保育について実践的に学ぶ（1） 第 9回：模擬保育を行い、個と集団の発達を踏まえた保育について実践的に学ぶ（2） 第10回：模擬保育を行い、個と集団の発達を踏まえた保育について実践的に学ぶ（3） 第11回：模擬保育を振り返り、グループ内で自己評価を行い改善点について話し合う 第12回：家庭や地域、小学校との連携を踏まえた保育について考える 第13回：長時間保育のあり方と保育内容について学ぶ 第14回：特別な支援を必要とする子どもの保育内容について考える 第15回：多文化共生としての保育内容について学ぶ 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 適宜資料を配布する。				
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針解説 認定こども園教育・保育要領解説 幼稚園教育要領解説 豊かな育ちのための保育内容総論 ミネルヴァ書房				
【学生に対する評価】 定期試験（50％） 課題提出（20％） 模擬保育発表（30％）				

【授業科目名】 乳児保育Ⅱ (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 清山 莉奈		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講学年・時期】 2年・後期
【授業の概要】 乳児保育の重要性への認知の高まりを踏まえ、事例の検討やグループワーク等を通じて、3歳未満児の発達にふさわしい保育経験を保障する上で求められる知識や技術、判断、倫理に関する専門性についての理解を深める。保育環境の構成や保育実践の振り返りを通じて、乳児保育の質向上の重要性について理解を深める。				
【授業の到達目標】 1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
【授業計画】 第1回：乳児期の育ちと学びを支える重要性 第2回：子どもの生活の流れと保育者の援助（1）：0歳児クラス 第3回：子どもの生活の流れと保育者の援助（2）：1，2歳児クラス 第4回：子どもの生活や遊びを支える保育環境（1）：環境を捉える視点 第5回：子どもの生活や遊びを支える保育環境（2）：環境の構成 第6回：子どもの生活や遊びを支える保育環境（3）：発表・振り返り 第7回：保育者の援助の実際（1）：受容的、応答的なかわり 第8回：保育者の援助の実際（2）：子どもの気持ちの尊重 第9回：保育者の援助の実際（3）：間接的な援助 第10回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 第11回：環境の変化や移行に対する配慮 第12回：家庭との連携—集団保育の意義や独自性とその発信— 第13回：乳児保育の計画、実践、記録、評価、改善（1）：全体的な計画、指導計画 第14回：乳児保育の計画、実践、記録、評価、改善（2）：実践の記録と振り返り 第15回：有能な乳児—乳児の有能さとその発信— 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 保育所保育指針解説（厚生労働省） フレーベル館 9784577814482				
【参考書・参考資料等】 新・保育環境評価スケール②〈0・1・2歳〉 テルマ・ハームス他著 埋橋玲子訳 法律文化社 子どもの姿ベースの新しい指導計画の考え方 無藤隆・大豆生田啓友編著 フレーベル館 子どもと保育者でつくる育ちの記録—あそびの中の育ちを可視化する— 北野幸子・大阪府私立幼稚園連盟第26次プロジェクトメンバー著 日本標準 学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～ 高山静子著 小学館 0・1・2歳児クラスの現場から 日本が誇る！ていねいな保育 大豆生田啓友・おおえだけいこ著 小学館				
【評価の方法】 定期試験（50％）、保育環境に関する発表（20％）、テーマに沿った授業の準備・実施（30％）				

【授業科目名】 子育て支援 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 阪本 満		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講学年・時期】 2年・前期
【授業の概要】 保育所保育指針に規定されている子育て支援の意義や、保育士の役割と相談支援の基本を学ぶ。また、保育ソーシャルワークの観点から他機関との連携についての知識を深める。さらに、保育所や他の児童福祉施設の様々な相談事例から支援の実際と方法について学ぶ。実践力を深めるためにグループ討論やロールプレイ等の手法を活用した演習も行う。				
【授業の到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の意義と原則について理解するとともに、保護者との信頼関係を築くための基本的な姿勢や援助方法について理解する。</li> <li>・保育相談事例や演習問題を通して、保護者支援の進め方について実践力を身に付ける。</li> </ul>				
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション それって子育て支援？ 第 2回：制度としての子育て支援① 保育所の特性を生かした支援 第 3回：制度としての子育て支援② 不適切な養育・機関との連携 第 4回：制度としての子育て支援③ 地域に開かれた子育て支援 第 5回：家庭を取り巻く事象や子育て家庭への理解について① グループワーク 第 6回：家庭を取り巻く事象や子育て家庭への理解について② グループワーク 第 7回：子育て支援の実際 第 8回：子育て支援の基礎知識・援助技術① 自己開示と傾聴 第 9回：子育て支援の基礎知識・援助技術② リフレーミング 第10回：子育て支援の基礎知識・援助技術③ 自己受容と自己覚知・他者理解 第11回：子育て支援の基礎知識・援助技術④ ペアレントトレーニング・文字による伝え方等 第12回：子育て支援の基礎知識・援助技術⑤ DVD視聴によるワーク 第13回：子育て支援の基礎知識・援助技術⑥ 保育ソーシャルワークの展開過程 第14回：子育て支援の基礎知識・援助技術⑦ 障害受容等 第15回：まとめ 子育て支援とは 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 保護者支援 保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援 永野典詞・岸本元気 風鳴舎 ISBN 9784907537005				
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針解説等 その他の必要資料は授業内配布				
【評価の方法】 定期試験60%、授業ワークシート等の提出物40%				

【授業科目名】 保育・教育課程論 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 吉田 しのぶ		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・前期
【授業の概要】 幼児教育は、幼児の発達に応じたふさわしい保育・教育計画に基づき実施しなければならない。そのために、毎年のカリキュラムを見直し、一人一人の幼児の姿から育ちの方向性、ねらいをもった保育を計画し、実践・振り返り改善することが大切である。ワークショップをするなかで現場の姿をイメージしながら教育課程・保育の全体的な計画について学ぶ。幼稚園・保育所・認定こども園における保育を保育者はどのように計画・実践・記録・省察・評価・改善しているのか全体を捉え理解を深める。				
【授業の到達目標】 1. 学校教育において教育課程が果たしている役割や機能を理解する 2. 教育課程編成の基本原則を理解し教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する 3. 教科・領域・学年を横断して教育内容を選択・配列された教育課程や考え方を理解する 4. 保育の計画及び評価について役割・機能・意義を理解する 5. 保育の全体的な計画と指導計画の作成についてその意義や方法を理解する 6. 子ども理解に基づく保育・教育の過程について基本的な考え方を理解し、全体構造を捉え、カリキュラム・マネジメントについて理解する				
【授業計画】 第 1回：保育・教育課程論で学ぶこと 第 2回：保育の基本について、保育で重視していること 第 3回：教育課程・全体的な計画と指導計画の役割・機能・意義を理解する（1） 第 4回：教育課程・全体的な計画と指導計画の役割・機能・意義を理解する（2） 第 5回：幼稚園における教育課程の理解 第 6回：保育所における全体的な計画の理解 第 7回：指導計画の作成の基本とその方法について（幼稚園・保育所） 第 8回：指導計画の作成の基本とその方法について（幼稚園・保育所） 第 9回：指導計画の作成の基本とその方法について（幼稚園・保育所） 第10回：3歳児の特性と指導計画 第11回：4歳児の特性と指導計画 第12回：5歳児の特性と指導計画 第13回：保育の実際と評価の考え方（PDCAサイクル） 第14回：就学前教育（幼保）と小学校連携 第15回：まとめと振り返り 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 「教育課程・保育の計画と評価」 岩崎 淳子他 萌文書林 978-4-89347-314-1				
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
【評価の方法】 定期試験（50%） 課題・ワークプリント（50%）				

【授業科目名】 保育・教職実践演習 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 吉田しのぶ・藤田千波		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・後期
【授業の概要】 履修カルテや実習記録等をもとに授業や実習を振り返り、保育者として必要な知識・技能等の習得について確認する。クラスを模した集団を作り、模擬保育に基づくロールプレイ、フィールドワークをグループで行い、新人保育者に求められる実践的力量を高める。				
【授業の到達目標】 1. 保育者としての職務について、その意義や役割、職務内容を再確認し、下記の事項について総合的、横断的に学ぶとともに、新人保育者としての実践的力量を身につける。 (1) 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 (2) 社会性や対人関係能力に関する事項 (3) 子ども理解やクラス運営等に関する事項 (4) 保育内容等の指導力に関する事項 2. これまでの授業や実習での学びを振り返り、学修の成果と課題を明確にする。 3. 模擬保育やロールプレイ、フィールドワークなどを通して、保育者として求められる幅広い教養と幼児理解や保育実践、クラス運営などに関する専門的知識や技術を身につける。 4. 積極的に情報を収集し、グループワークや討論を行うことを通して、社会性や対人関係能力を身につける。				
【授業計画】 第 1 回：オリエンテーション 授業のねらい、内容について理解する。 実習や履修カルテの振り返りを通して、自己の課題を明確にする 第 2 回：保育者の役割や職務内容、子どもに対する責任について、自分の考えを深める。 第 3 回：事例を通して、家庭との連携の在り方について考える。 第 4 回：模擬幼稚園を作り、園紹介を考える。 第 5 回：園行事の企画・立案の基本を学ぶ。 園行事実施に向けた事前指導計画、フィールドワーク実施計画を考える。 第 6 回：フィールドワーク実施し、園行事のお知らせを作成する。 第 7 回：模擬保育について、事前計画を立てる。 第 8 回：模擬保育の指導案を作成する。 第 9 回：グループで指導案の内容を見直し、子ども理解に基づく指導案を作成する。 第10回：模擬保育の準備をする。 第11回： } 第12回： } 模擬保育 模擬保育を通して、基本的な保育技術と改善点を学ぶ。 第13回： } 第14回：2年間の学びを整理し、保育者に必要な資質能力について、自分の考えをまとめる。 第15回：授業内の成果を、パワーポイントを使って発表する。 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 必要に応じて資料配布				

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

【評価の方法】

定期試験(レポート課題) 30% 模擬保育・課題提出 70%

【授業科目名】 教育実習Ⅰ（集中実習） （保育分野における実務経験のある教員による授業科目）		【担当教員名】 保育科専任教員		
【授業形態】 実習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 10日間	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・前期
【授業の概要】 幼稚園（認定こども園）での実習 一年次の実習を踏まえ、実習内容をより深められるように取り組んでいく。 指導実習（責任実習）として保育者の指導を受けながら、指導計画を立案し、保育の一部を保育者に代わって担当する。子どもの実態を理解し、保育活動の選択、環境構成、保育の展開、保育者の援助について学ぶ。				
【授業の到達目標】 1. 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 2. 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 3. 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できている。 4. 様々な場面で適切に幼児と関わるすることができる。				
【授業計画】 (1) 実習の目標 ①幼稚園の役割について具体的に理解する。 ②実際の保育を通して、保育技術を修得する。 ③幼児の発達に踏まえて、個人差に応じた援助の方法を学ぶ。 ④指導計画（指導案）を立て、実際に保育を実践する。 ⑤観察したこと、子どもとの関わりの中で考えたこと、理解したことを記録する。 ⑥保育実践やその後の考察の中で、自己課題を明確にする。 ⑦幼稚園教諭としての仕事（保育以外）を具体的に学ぶ。 ⑧職員間の役割分担とチームワークの必要性を理解する。 ⑨安全及び疾病予防への配慮を理解する。 (2) 実習の方法 実習については、段階的に観察・参加・指導実習を体験する。 ①観察実習 実際に教育現場を観察し、幼児の生活や遊びの様子、子どもと保育者との相互関係などについて理解を深める ②参加実習 保育者の助手的な立場で、実際に幼児と触れ合いながら保育に参加する。 ・生活面の援助及び指導について、保育者の補助をしながら指導方法を学ぶ。 ・幼児の活動に参加し、保育者の関わり方を学ぶ。 ・一日の保育活動が、幼児の主体性を尊重し保育計画を基に展開されている事を理解する。 ③指導実習 ・担任教師の指導のもとに自ら指導計画を立案して、「部分保育」「設定保育」を体験し、保育の展開を学ぶ。				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 幼稚園教育要領解説 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック第2版				

【参考書・参考資料等】

教育実習 I の手引き

【評価の方法】

現場評価 70% 提出物 30%

【授業科目名】 保育実習Ⅱ (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 保育科専任教員		
【授業形態】 実習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 10日間	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 2年・前期
【授業の概要】 ・保育所において10日間（80時間以上）学外実習を行う。 ・既習の知識や技術を基盤として、実習先施設において参加観察実習、部分・設定保育を行う。				
【授業の到達目標】 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。				
【実習内容】 1. 保育所の役割や機能としての具体的な取り組みについて理解する。 ① 養護と教育が一体となっていく保育 ② 保育所の社会的役割と責任 2. 保育士と子どもの関係、関わり方を観察することで、保育について理解を深める。 ① 子どもの心身の状況や活動の観察 ② 保育士等の援助や関わり ③ 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携の仕方を理解する。 ① 環境を通して行う保育、生活や遊びを総合的に行う保育 ② 入所している子どもの保護者支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 ③ 関係機関や地域社会との連携・協働 4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価と保育の課程について実践体験を通して学ぶ。 ① 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 ② 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理を理解する。 ① 多様な保育の展開と保育士の業務 ② 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己課題の明確にする。				
【実習日数】 実習10日間(6月集中実習)				
【参考書・参考資料等】 保育実習Ⅱの手引き				
【評価の方法】 現場評価 70% 提出物 30%				

授業科目名】		【担当教員名】		
保育実習指導Ⅱ (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		保育科専任教員		
【授業形態】	【必修・選択】	【授業回数】	【単位数】	【開講学年・時期】
演習	必修	15回	1単位	2年・前期
【授業の概要】				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習Ⅰの体験や学びを基に、保育実習Ⅱの意義や目的を知り、保育について総合的に学ぶ。</li> <li>2. 講義や演習等で学んだ内容の関連性を踏まえ、保育への理解を深めるとともに実践力を身につける。</li> <li>3. 保育の全体計画に基づく具体的な保育計画について理解し、実習に向けた保育指導案を作成する。</li> </ol>				
【授業の到達目標】				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</li> <li>2. 保育実習Ⅰや既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</li> <li>3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</li> </ol>				
【授業計画】				
<p>第1回：保育実習Ⅱの基本認識：オリエンテーション</p> <p>第2回：保育実習Ⅰの振り返り：それぞれの学びをグループで討議</p> <p>第3回：保育実習Ⅱの意義と目的：保育所に求められる社会的役割 多様な保育所の機能について</p> <p>第4回：保育実習Ⅱに向けて：実習先の概要及び実習目標について</p> <p>第5回：保育所の生活と保育者の援助：保育所の一日の生活の流れ 保育展開の把握</p> <p>第6回：子どもの活動の理解：環境を通して行う保育 生活や遊びを通して行う保育の理解</p> <p>第7回：実習課題の理解：保育実習Ⅱの方法の理解と課題作成 実習の際の留意事項</p> <p>第8回：実習記録の書き方：保育実習Ⅱにおける記録の書き方と保育をとらえる視点</p> <p>第9回：保育計画と保育指導案：保育の長期計画と短期計画の関係理解 保育指導案を書くことの意味と保育指導案作成</p> <p>第10回：保育所実習報告会</p> <p>第11回：就職セミナー（先輩を囲んで）</p> <p>第12回：多様な保育のニーズの理解：保護者対応や家庭や地域との連携 地域子育て支援について</p> <p>第13回：保育士の専門性の理解：保育士の仕事の理解と職業倫理 チームワークについて</p> <p>第14回：保育実践に向けて：教材等の準備 保育指導案によるロールプレイ</p> <p>第15回：まとめ：実習の心構えと自己課題の明確化 事前・事後レポート課題</p>				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】				
<p>保育所・施設幼稚園実習ステップブック 出版社 みらい社 ISBN番号 9784860155179</p> <p>実習日誌の書き方 出版社 中央法規 ISBN番号 9784805882184</p> <p>保育のマナーと言葉 出版社 わかば社 ISBN番号 9784907270353</p>				
【参考書・参考資料等】				
<p>保育所保育指針、保育所保育指針解説</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説</p> <p>幼稚園教育要領解説</p>				
【評価の方法】				
授業中に関する提出物 100%				

【授業科目名】		【担当教員名】		
基礎演習 <small>(保育分野における実務経験のある教員による授業科目)</small>		保育科専任教員		
【授業形態】	【必修・選択】	【授業回数】	【単位数】	【開講学年・時期】
演習	必修	60回	2単位	1年・通年
【授業の概要】				
<p>初年次学生が、本校の教育理念と歴史について学び、本校の学生としての誇りと自覚を持ち、専門学校生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学科の教育目標を達成できるようにグループワークなどを通して、コミュニケーション力を上げるとともに正しい言葉使いのできる保育者の育成を行う。</p>				
【授業の到達目標】				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建学の精神、それに基づく教育目標、学院の歴史について理解する。</li> <li>2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。</li> <li>3. 学生相互や教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。</li> <li>4. 社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。</li> </ol>				
【授業計画】				
<p>第 1回：学校を理解する 「学院理解」「建学の理解」「教育目標」「本校の歴史」を学ぶ  第 2回：基礎演習とは 専門学校生活のオリエンテーション・履修の方法・授業に臨む姿勢マナーについて・校内見学・クラス目標決め・クラス役員決め  第 3回：本校で学ぶ目的の理解、資格を習得する学びの方法及び内容の理解専門職に必要な社会人マナー指導（正しい挨拶・電話の仕方・身だしなみなど）時間割・学年暦の確認  第 4回：社会人マナー講座（1）  正しい言葉使い・敬語（「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」）を理解する。挨拶の仕方・電話の応対・教員室の入り方・校内での挨拶の仕方・お礼状の作成・ビジネス会話の演習・たしなみ・服装など  第 5回：人権教育① 専門職に就くところの理解、学び方についての指導  第 6回：「知へのステップ」第1章「スタディ・スキルズとは」  第 7回：「知へのステップ」第2章「ノート・テイキング」の演習  第 8回：「知へのステップ」第3章「リーディングの基本スキル」を学ぶ テキストを読むとは  第 9回：「知へのステップ」第4章「より深いリーディングのために」要約とは  第10回：「漢字に強くなろう」保育の記録・日常生活でよく使用する漢字に強くなる  第11回：「保育の必要な漢字」幼稚園教育要領・保育所保育指針・児童福祉法などの漢字に強くなる  第12回：社会人マナー講座（2）「日常の手紙の書き方」  第13回：社会人マナー講座（3）「お礼状の書き方」  第14回：定期試験や特別教育科目に関する指導 定期試験の受け方  第15回：人権教育② 社会人マナー講座（4） 保育現場の経験者から伝授してもらおう  第16回：「知へのステップ」第6章 情報の収集と整理 インターネットによる情報収集  第17回：「知へのステップ」第7章 情報の整理  第18回：「知へのステップ」第8章 アカデミック・ライティングの基本スキル 文章作成 レポートの書き方  第19回：「知へのステップ」第9章 効果的なアカデミック・ライティング わかりやすい文とは</p>				

第20回：「知へのステップ」第10章 パソコンによるライティング・スキル パソコンを使ったレポートの作成術

第21回：「知へのステップ」効果的なライティング レポートを作成してみよう

第22回：「知へのステップ」第11章 プレゼンテーションの基本スキル

第23回：「レポート」を振り返る 自分の書いたレポートを振り返り、添削・修正してみよう

第24回：「自主研究に取り組もう」課題を見つけ、情報を収集し、レポートにする

第25回：人権教育③ コミュニケーションスキルを学ぼう  
アサーティブトレーニングを演習してみよう

第26回：心身の健康管理について メンタルヘルスを整える(バイオリズム・自己コントロールなど)

第27回：自分を分析してみよう 人と関わる仕事をするにふさわしいかを自己分析する

第28回：労働条件セミナー 次年度に向けた意識づけ

第29回：自分磨きのために — ベンチマーク・履修カルテ — 自己課題と向き合う  
これでいいのか考えてみよう 学校外での学生評価から考える

第30回：まとめ・振り返り

#### 定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

「知へのステップ」学習技術研究会 くろしお出版, 「保育のマナーと言葉」わかば社,  
講義概要・学生便覧

【参考書・参考資料等】

保育所保育指針、保育所保育指針解説

幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【評価の方法】

定期試験 50%

授業で課すワークおよび提出物による評価 50%

【授業科目名】 英語コミュニケーション (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 平田 淳一郎		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 1年・前期 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 保育現場での英会話を行うために必要な英文法を学ぶ。また同時並行で、絵本の読み聞かせやゲームなどを英語で行えるように練習を行う。				
【授業の到達目標】 保育現場で実際に使用される英語表現や専門用語を習得し、運用する力を身につける。また多様な時代において保育現場で必要とされる英会話能力を養うことを目標とする。				
【授業計画】 第1回: Chapter 1: Hi, I'm Yuri Tanaka 第2回: Chapter 2: Where Is the Multi-purpose Room 第3回: Chapter 3: Good morning. How Are You Today? 第4回: Chapter 4: What Color Do You Like? 第5回: Chapter 5: There's a Ladybug on the Leaf 第6回: Chapter 6: It's Time to Play Outside 第7回: Chapter 7: She Is Allergic to Eggs 第8回: Chapter 8: You Should Go to the Bathroom 第9回: Chapter 9: We Made Masks Today 第10回: Chapter 10: If It rains, What Happens? 第11回: Chapter 11: What Shall We Do Today? 第12回: Chapter 12: I Feel Feverish 第13回: Chapter 13: This Is Yuri From Cosmos Day Care Center 第14回: Chapter 14: Thank You Very Much for Everything 第15回: まとめ 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 Happy English for Childcare 土屋麻衣子 金星堂 978-4-7647-4008-2 c1082				
【参考書・参考資料等】 プリントを配布します。				
【評価の方法】 定期試験 50% 小テスト 10% 授業中のワーク・アクティビティーの評価 40%				

【授業科目名】 保育原理 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 吉田 しのぶ		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 1年・前期
【授業の概要】 保育は、楽しく、やりがいがあり喜びに満ちた仕事の側面がある一方で、命を預かるという責任の重い、厳しく、難しい仕事である。充実した保育が展開できるよう、基本といえる原理を修得する。				
【授業の到達目標】 1 保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度を理解する。 2 保育者保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解する。 3 保育の思想と歴史的変遷を知り、保育の現状と課題について理解する。				
【授業計画】 第 1 回：オリエンテーション/「保育の原理」って？ 保育とは何かを理解する 第 2 回：「子どものオリエンテーション育ち」とは 子どもの発達とは何か？を理解する 第 3 回：「保育はどこで行われているの」 主な保育施設を理解する 第 4 回：「保育の基本」とは 保育所保育指針の制度的な位置づけ 第 5 回：「保育のねらい」と「内容と方法」3歳未満児 乳児と1・2歳児の理解と保育 第 6 回：「保育のねらい」と「内容と方法」3歳未満児 3歳未満児の保育で重要なこととは 第 7 回：「保育のねらい」と「内容と方法」3歳以上児 3歳児以上の保育の実情 第 8 回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは 小学校との接続 第 9 回：「保育の計画」とは 教育課程・全体的な計画とカリキュラム・マネジメント 第10回：「保育の専門家」とは これからの保育者に必要は資質 第11回：「子育て支援」 一保護者・地域とのコミュニケーション 第12回：「海外の保育思想と歴史」 海外の保育思想を知る 第13回：「日本の保育思想と歴史」 日本の保育観と変遷 第14回：「保育の現状と課題」 今、問題になっていることは？ 今後の課題とは？ 第15回：「保育原理」のまとめ 学びを振り返る 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 つながる保育原理 著者名 井上孝之・小原敏郎・三浦主博 出版社名 (株)みらい				
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説 保育所保育指針、保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
【評価の方法】 定期試験 60% 提出物(課題・ワークプリント等) 40%				

【授業科目名】 子ども家庭福祉 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 岩崎 巧		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 1年・後期
【授業の概要】 近年、子どもと家庭を取り巻く状況は多様化しており、子どもの最善の利益にかかわる保育者の役割として、子どもの保育だけでなく保護者支援も重要となっている。本講義では、子どもの権利や子ども家庭福祉の理念を捉え、支援体制としての法体系を理解したうえで、実践現場に求められる支援について事例を通して理解を深めていくことを目的とする。				
【授業の到達目標】 ・子どもを取り巻く問題と社会的背景を説明できる ・子どもの権利や子ども家庭福祉の理念を説明できる ・子どもの問題に対応する法制度の概要を説明できる ・子ども家庭福祉に携わる専門職の役割を説明できる ・子ども家庭福祉の実践現場にはどのような支援が求められているのか考察できる				
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション・子ども家庭福祉とは 第 2回：子どもの貧困 第 3回：子どもの権利保障の歴史背景 第 4回：子どもの人権擁護 第 5回：子ども家庭福祉の法制度 第 6回：子ども家庭福祉の施設と専門職 第 7回：少子化と地域子育て支援 第 8回：子ども虐待・ドメスティックバイオレンス（DV）とその防止 第 9回：少年非行等への対応 第10回：障害のある子どもへの対応 第11回：外国籍の子どもとその家庭への対応 第12回：ヤングケアラーへの対応 第13回：子ども家庭福祉における支援と課題①（グループワーク） 第14回：子ども家庭福祉における支援と課題②（グループ発表・ディスカッション） 第15回：地域における連携・協働とネットワーク 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 『基本保育シリーズ③子ども家庭福祉』第2版・新保幸男, 小林理 編(2023)・中央法規 ISBN:978-4-8058-8786-8				
【参考書・参考資料等】 特になし				
【評価の方法】 授業内課題（ワークシート）50% 課題発表30% 最終課題20%				

【授業科目名】 子ども理解と援助 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 阪本 満		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講学年・時期】 1年・後期
【授業の概要】 子どもの実態に応じた発達や学びの過程を把握する意義を理解し、子どもを理解する上での基本的な視点を身につける。また、発達援助のための基本的態度や具体的方法をグループワークや発表を通して体験的に学び修得する。				
【授業の到達目標】 ①保育における実態に応じた一人一人の子どもの心身の発達、学びを把握することの意義を実践と結び付けて理解する。 ②子どもを理解するための具体的な視点や方法について理解する。 ③子ども理解に基づく保育者の姿勢や援助について具体的な事例をイメージしながら説明できる。				
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 子ども理解と援助とは？ 第2回：「今、ここ」の子どもの内面にせまる理解① 他者の内面について 第3回：「今、ここ」の子どもの内面にせまる理解② 子ども内面を理解しようとするプロセス 第4回：共感的理解について 第5回：「生活」を通しての子ども理解 第6回：「遊び」を通しての子ども理解① 遊びの種類 第7回：「遊び」を通しての子ども理解② 継続した遊びの中での10の姿の育ち 第8回：人的環境としての保育者の役割 第9回：発達の段階に応じた子ども理解 第10回：「集団での育ち」からの子ども理解 第11回：葛藤やつまずきについて① いざこざの対応 第12回：葛藤やつまずきについて② 葛藤を焦点にしたDVD視聴 第13回：特別な配慮を要する子どもの理解 発達障害・集団での育ち（インクルーシブ的視点） 第14回：観察/記録/省察/評価・職員間の対話と連携 第15回：発達の連続性と就学への支援 まとめ 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 子どもの理解と援助演習ブック（よくわかる！保育士エクササイズ8） 松本 峰雄 監修・伊藤 雄一郎 著ほか ミネルヴァ書房 ISBN 9784623090679				
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説 その他の必要資料は授業内配布				
【評価の方法】 定期試験60％，授業ワークシート等の提出物40％				

【授業科目名】 教育の方法と技術 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 藤井 和子		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 1年・後期 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 幼児教育現場における教育方法について理解を深め、情報機器を活用した実践的な指導技術を身に付け、情報機器および教材を教育・保育現場に効果的に活用できるリテラシー能力を養う。				
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 (1) 教育の方法論 一般目標：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 到達目標：1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解できている。 2) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解できている。 3) 学級・幼児・教員・保育室・教材など保育を構成する基礎的な要件を理解できている。 4) 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解できている。 (2) 教員の技術 一般目標：教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 到達目標：1) 教育・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2) 基礎的な子供の発達を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、保育形態、評価基準等の視点を含めた保育指導案を作成することができる。 (3) 情報機器及び教材の活用 一般目標：情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 到達目標：1) 子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり保育内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 2) 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している				
【授業計画】 第 1回：保育の出発点としての幼児理解 第 2回：幼児の発達に関わる様々な課題 第 3回：幼児の発達や学びの過程を捉える視点 第 4回：幼児期にふさわしい教育の方法 第 5回：幼児の主体的な生活を基盤とする保育 第 6回：遊びのなかの学びをはぐくむ保育 第 7回：保育指導案作成の教材研究をする。 第 8回：保育指導案の作成及び実践内容の検討をする。 第 9回：保育における評価について考える。 第10回：幼児期の教育と小学校教育の連携 第11回：家庭や地域と連携した保育				

第12回：幼児を取り巻く情報環境  
第13回：情報機器を活用した教材の作成  
第14回：情報機器を活用したクラスだよりの作成  
第15回：まとめと振り返り  
定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

適宜資料を配布する

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説  
新 保育ラブリ 保育の内容・方法を知る 幼児教育の方法 (株)北大路書房  
幼児教育・保育のための教育方法論 垂見直樹 (編集), 池田竜介 (編集)ミネルヴァ書房

【評価の方法】

定期試験 (50%)、課題提出等 (50%)

【授業科目名】 子どもと健康 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 岩崎 巧		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 8回	【単位数】 1単位	【開講学年・時期】 1年・後期 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 乳幼児における健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出す領域「健康」の指導について基本的な知識・技能を身につける。また、幼児期の健康に関する現代的課題を把握し、保育現場における遊びを通じた指導法や基本的生活習慣の確立に向けた援助のあり方を、協同学習を取り入れながら学修する。				
【授業の到達目標】 (1) 子どもを取り巻く環境の現状と健康課題について理解する。 1) 乳幼児期の心身の発達と健康課題について理解する。 2) 健康の定義と、健康の意義を説明できる。 (2) 乳幼児の諸機能の発達と、生活習慣の形成を理解する。 1) 乳幼児の体の発達の特徴を説明できる。 2) 乳幼児期の基本的生活習慣の確立の意義を説明できる。 (3) 安全な生活とけがや病気の予防について理解する。 1) 幼児期の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。 2) 幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。 3) 危険に関してリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。 (4) 幼児期の運動機能の発達の特徴と意義を理解する。 1) 乳幼児期に必要な多様な動きを獲得することの意義を理解している。 2) 乳幼児の運動発達の特徴を説明できる。 3) 日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。				
【授業計画】 第1回：乳幼児期の意義：健康の定義と乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境と健康 第2回：乳幼児の心身の発達の特徴：発達と領域「健康」のねらい 第3回：乳幼児期の生活習慣の形成：乳幼児期の生活習慣の獲得及び生活リズムの形成とその意義 第4回：幼児の安全教育と危険：子どもの安全への意義や態度を育むことの重要性和安全管理 第5回：幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置の基礎や病気の予防 第6回：乳幼児期の運動発達の特徴：運動のコントロール能力の発達と「多様な動き」の意味 第7回：日常生活における運動：社会の変化と生活の中の動きの経験、その配慮の基本的な考え方 第8回：遊びとしての運動：こどもにとっての遊びとして行う運動の在り方				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 『子どもの姿からはじめる 領域・健康』・秋田喜代美, 三宅茂夫監修・(株)みらい ISBN:9784860155285				
【参考書・参考資料等】 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館・内閣府、文部科学省、厚生労働省				
【評価の方法】 授業内課題50% 課題発表30% 最終課題20%				

【授業科目名】 子どもと人間関係 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 藤井 和子		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 8回	【単位数】 1単位	【開講学年・時期】 1年・前期
(授業の概要) 現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する				
【授業の到達目標及びテーマ・目標】 (1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 1) 幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解できている。 2) 人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支える力となることを理解できている。 (2) 幼児期の人間関係の発達について幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。 1) 乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 2) 幼児期の生活や遊びの中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。 3) 自立の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 4) 協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 5) 道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。 6) 家族や地域とのかかわりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。				
【授業計画】 第1回：現代社会と幼児の人間関係 家庭・地域での経験と幼児期に期待されるもの 第2回：3歳未満児における人間関係の発達 身近な大人との関係を基盤として育つ子ども 第3回：幼児期の生活や遊びの中で見られる人と関わる力の育ち 関係性の育ちや個と集団の育ちを視点として 第4回：乳幼児期の自立心の育ち 「いや」「じぶんで」から始まる自立への道 第5回：幼児期の協同性の育ち 目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち 第6回：幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち 他者との葛藤体験を通してきまりの必要性を理解し、気持ち 第7回：乳幼児期の人間関係のひろがり 家庭生活～園生活～地域へとひろがる場と関係性の中 第8回：幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 適宜資料を配布する				
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説				
【評価の方法】 定期試験60% 課題提出40%				

【授業科目名】 子どもと環境 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 清山 莉奈		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 8回	【単位数】 1単位	【開講学年・時期】 1年・前期
【授業の概要】 乳幼児を取り巻く環境（もの、自然、人、社会など）について理解する。乳幼児の環境とのかかわりとそれにより促される乳幼児の育ちと学び、保育者の役割について、事例の検討やグループワークを通して学び、理解する。				
【授業の到達目標】 1. 乳幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、社会的環境等）の重要性とその現代的課題について説明できる。 2. 乳幼児と環境のかかわり方について、能動性、好奇心、探究心等の観点から説明できる。 3. 乳幼児期の認知的発達の特徴と筋道を踏まえて、物理的事象、数量・図形、生き物、自然に対する乳幼児の興味・関心、理解の発達を説明できる。 4. 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境や乳幼児の生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、かかわり方について説明できる。				
【授業計画】 第1回：乳幼児期の独自性と領域「環境」—生活と遊びの中の乳幼児の育ちと学び— 第2回：乳幼児期の発達と環境—乳幼児期の発達、遊び、集団保育— 第3回：ものとのかかわりを通じた乳幼児の育ちと学び 第4回：自然とのかかわりを通じた乳幼児の育ちと学び—植物、動物、土・砂・泥、季節等への親しみ— 第5回：人とのかかわりを通じた乳幼児の育ちと学び—保育者、友だち、保護者、地域の人々との触れ合い— 第6回：社会とのかかわりを通じた乳幼児の育ちと学び—標識・文字、生活に関係の深い情報や施設、地域の伝統文化への関心や親しみ— 第7回：数量・図形等への関心や科学性の芽生えを促す環境—子どもの主体的な遊びや活動、遊びの継続と深化— 第8回：環境における現代的課題（持続可能な開発のための教育（ESD）等） 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 幼稚園教育要領解説（文部科学省） フレーベル館 9784577814475				
【参考書・参考資料等】 新・保育環境評価スケール①（3歳以上）テルマ・ハームス他著 埋橋玲子訳 法律文化社 学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～ 高山静子著 小学館				
【評価の方法】 定期試験（60%）、提出物（40%）				

【授業科目名】 子どもと言葉 (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 藤田 千波		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 8回	【単位数】 1単位	【開講学年・時期】 1年・前期
【授業の概要】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の言葉の発達過程を理解し、言葉の重要性と言葉の発達に関わる保育者の役割を学び援助のあり方を身につける。</li> <li>・子どもが触れる文化、子どもにとっての文化について様々な表現活動から概観し、健全な育ちとのかかわりについて考える。</li> </ul>				
【授業の到達目標】 (1) 人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。 1) 人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について説明できる。 2) 乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきも含めて説明できる。 (2) 言葉に対する感覚を豊かにする意義について理解する。 1) 言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 2) 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身につける。 3) 言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 (3) 幼児にとっての指導文化財の意義を理解する。 1) 児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身につける。 2) 幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。				
【授業計画】 第1回： 人間と言葉：人間にとっての言葉の意義と役割 第2回： 言葉の獲得：子どもの言葉の発達過程 第3回： 言葉の獲得：言葉の発達と領域「言葉」のねらい 第4回： 言葉に対する感覚：言葉の感覚とは何か 第5回： 言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際：子どもと楽しむ言葉あそびを考える 第6回： 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財：子どもにとっての児童文化財の意義 第7回： 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の実際：保育への取り入れ方 第8回： 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践：絵本作り 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 子どもの姿からはじめる 領域・言葉 秋田喜代美・三宅茂夫監修 出版社(株)みらい ISBN番号 9784860155261				
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
【評価の方法】 定期試験 50% 授業課題(提出)・発表 50%				

【授業科目名】 乳児保育 I (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 清山 莉奈		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 1年・前期 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 保育学や発達心理学など多様な分野の研究により乳児期の重要性が確認されていることを踏まえ、事例の検討やグループワーク等を通じて、3歳未満児によりよい保育経験を保障する上で必要となる知識や技術、判断、倫理に関する専門性について理解する。				
【授業の到達目標】 1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
【授業計画】 第 1 回：乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 第 2 回：乳児期の重要性とその可視化—アタッチメント、非認知能力— 第 3 回：乳児保育の現状と課題：多様な背景をもつ乳幼児、多様な環境で育つ乳幼児 第 4 回：保育の専門性を活かした子育て支援—子どもの最善の利益のために— 第 5 回：3歳未満児の生活と環境（1）：安心、安全、心地よさ 第 6 回：3歳未満児の生活と環境（2）：子どもの主体性の尊重 第 7 回：3歳未満児の遊びと環境（1）：環境を通して行う保育 第 8 回：3歳未満児の遊びと環境（2）：子ども理解に基づく環境構成 第 9 回：乳児保育の独自性—発達の理解に基づく保育者の援助— 第10回：乳児保育の計画、実践、記録、評価、改善（1）：全体的な計画と指導計画 第11回：乳児保育の計画、実践、記録、評価、改善（2）：実践の記録と振り返り、保育の質の向上 第12回：保育者の専門性と同僚性：同僚との保育の振り返りと対話を通じた専門性の向上 第13回：家庭との連携—子どもの育ちと学びの可視化を通じて—（1）：送迎時、連絡帳、お便り等 第14回：家庭との連携—子どもの育ちと学びの可視化を通じて—（2）：ドキュメンテーション 第15回：自治体や地域の関係機関等との連携 定期試験				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 保育所保育指針解説（厚生労働省） フレーベル館 9784577814482				
【参考書・参考資料等】 新・保育環境評価スケール②〈0・1・2歳〉 テルマ・ハームス他著 埋橋玲子訳 法律文化社 学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～ 高山静子著 小学館 0・1・2歳児クラスの現場から 日本が誇る！ていねいな保育 大豆生田啓友・おおえだけいこ著 小学館				
【評価の方法】 定期試験（50％）、授業内での発表（30％）、提出物（20％）				

【授業科目名】 教育実習Ⅰ（隔週実習） （保育分野における実務経験のある教員による授業科目）		【担当教員名】 保育科専任教員		
【授業形態】 実習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 10日間	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 1年・通年
【授業の概要】 幼稚園（認定こども園での実習） 実習園での指導のもとに、幼稚園における幼児との触れ合いや教師の援助を通して、様々な援助のあり方や教育的はたらきかけを学ぶ。見学・観察実習、参加実習を行う。 実習10日間 幼稚園（認定こども園）3園にて、3グループに分かれて実習を行う				
【授業の到達目標】 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項 1) 幼児との関りを通して、その実態や課題を把握することができる。 2) 指導教諭等の実施する保育を視点をもって観察し、事実即して記録することができる。 3) 教育実習園の学級経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できている。 4) 学級担任等の補助的な役割を担うことができる。				
【授業計画】 (1) 実習の目標 ①幼稚園の役割について理解する。 ②幼稚園での一日の流れを理解して保育に参加し、幼稚園教育の実際を学ぶ。 ③子どもとの関わりを通して幼児の発達を理解し、生活や遊びについての保育技術を習得する。 ④教育課程・指導計画を理解し、部分保育を体験する。 ⑤教材準備・環境構成など幼稚園教諭の仕事内容を理解する。 ⑥幼児教育への意欲を高め、保育者になることへの目標を確かなものにする。 ⑦教育活動のしくみや社会における幼児教育の役割について理解を深める。 (2) 実習の方法 実習については、段階的に見学・参加・指導実習を体験する。 ①見学・観察実習 実際に教育現場を観察し、幼児の実態把握や指導方法について理解する。 ②参加実習 参加実習で得た理解を基礎として教育活動に参加し、体験する中でより深い理解を得るもので担任教師の指導のもとに幼児と積極的な関わりを持つ。 ・生活面の援助及び指導について学習する。 ・いろいろな遊びの様子を知る。 ・一日の教育活動が、幼児の主体性と指導計画のもとに展開されていることを知る。 ・教師がどのように個人や集団に関わっているかを知る。 ・担任教師指導のもとに自ら指導計画を立案して、「部分保育」「設定保育」を体験し、保育の展開を学ぶ。				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 幼稚園教育要領解説 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック第2版				

【参考書・参考資料等】

教育実習 I の手引き

【評価の方法】

現場評価 70%      提出物 30%

※この実習に合格できなければ「教育実習 I（集中実習）」は履修できない。

【授業科目名】 教育実習 I (教育実習指導 I) 〈保育分野における実務経験のある教員による授業科目〉		【担当教員名】 保育科専任教員		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 20回	【単位数】 1単位	【開講学年・時期】 1年・通年
【授業の概要】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習におけるマナー、必要な諸手続き、記録の取り方や指導計画の作成方法と書式について学ぶ。</li> <li>・ 教育実習の基本を理解し、実習に必要な知識や技術を学ぶ。</li> <li>・ 事後指導では、実習で学んだことを振り返り、課題を明確にしていく。</li> </ul>				
【授業の到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者としての専門性を身につけるために、実習の意義と目的、内容・方法について理解する。</li> <li>・ 観察における留意点を理解し、事実即して正確に記述する力を身につける。</li> <li>・ 教材研究及びその活用法等、実習に対する知識・技術について身につける。</li> </ul>				
【授業計画】 第 1 回：教育実習指導 I について 全体オリエンテーション 第 2 回：教育実習の意義と目的 第 3 回：幼稚園教育の基本 幼稚園教育要領解説に基づいて 第 4 回：教材研究と実践スキル 手遊び 第 5 回：幼稚園教諭の一日の流れ 第 6 回：幼稚園における実習生の活動 第 7 回：教材研究と実践スキル ふれあい遊び 第 8 回：実習におけるマナーについて 第 9 回：教材研究と実践スキル 絵本・紙芝居について 第 10 回：教材研究と実践スキル 絵本の読み聞かせ 第 11 回：見学・観察実習について 第 12 回：教育実習の手引き・ルーブリックについて 第 13 回：実習記録の書き方① 観察実習 第 14 回：実習記録の書き方② 子どもの姿 第 15 回：実習記録の書き方③ 環境構成 第 16 回：実習記録の書き方④ 保育者の援助 第 17 回：教材研究と実践スキル ピアノの弾き歌い 第 18 回：保育指導案について 保育計画の意義・指導案作成の意義 第 19 回：保育指導案作成 部分保育指導案 第 20 回：教育実習の振り返り				
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 ①幼稚園教育要領解説・文部科学省・フレーベル館・9784 577814475 ②事前・事後学習のポイントを理解！ 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック [第2版] 山本美貴子・山本洋平 (編) みらい 9784 860155179 ③実習場面と添削例から学ぶ！ 保育・教育実習日誌の書き方 改訂版 小泉裕子 (編著) 中央法規 9874 805882184 ④【改訂2版】これだけは知っておきたい 保育のマナーと言葉 長嶋和代 (編) みらい社 9784 907270353				

【参考書・参考資料等】

教育実習 I の手引き

【評価の方法】

学習指導内提出物 100%

※本講義は科目の性質上(教育実習実施の必須科目)特別な理由を除き、欠席は認められません。

【授業科目名】 保育実習 I (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 保育科専任教員		
【授業形態】 実習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 保育所 10日間 施設 10日間	【単位数】 4単位	【開講学年・時期】 1年・前期 1年・後期 <small>(長期履修者対象外)</small>
【授業の概要】 ・保育所と施設において、各10日間(80時間)学外実習を行う。 ・保育所や施設で生活する子どもや利用者の様子、保育士の職務、施設の機能及び役割等について、保育士等の指導の下で、体験的に学ぶ。				
【授業の到達目標】 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や関わりを通して、子どもや利用者への理解を深める。 3. 子どもの保育及び利用者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育(養護・支援)計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
【実習内容】 1. 集中実習(保育所) 9月 10日間 <保育所実習の内容> (1) 保育所の役割と機能を具体的に理解する。 ① 保育所の生活と一日の流れ ② 保育所保育指針の理解と保育の展開 (2) 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 ① 子どもの観察とその記録による理解 ② 子どもの発達過程の理解 ③ 子どもへの援助やかかわり (3) 保育内容・保育環境について理解する。 ① 子どもの発達過程に応じた保育内容 ② 子どもの生活や遊びと保育環境 ③ 子どもの健康と安全 (4) 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ① 保育課程と指導計画の理解と活用 ② 記録に基づく省察・自己評価 (5) 専門職としての保育士の役割と職業倫理について具体的に学ぶ。 ① 保育士の業務内容 ② 職員間の役割分担や連携 ③ 保育士の役割と職業倫理  2. 集中実習(施設) 2・3月 10日間 <居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容> (1) 施設の役割と機能 ① 施設の生活と一日の流れ ② 施設の役割と機能 (2) 子どもや利用者の姿を知り、正しく理解する。 ① 子どもや利用者の観察とその記録				

- ② 個々の状態に応じた援助やかかわり
- (3) 養護内容・生活環境について理解する。
  - ① 計画に基づく活動や援助
  - ② 子どもや利用者の心身の状態に応じた対応
  - ③ 子どもや利用者の活動と生活の環境
  - ④ 健康管理、安全対策の理解
- (4) 計画と観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
  - ① 支援計画の理解と活用
  - ② 記録に基づく省察・自己評価
- (5) 専門職としての保育士の役割と倫理について具体的に学ぶ。
  - ① 保育士の業務内容
  - ② 職員間の役割分担や連携
  - ③ 保育士の役割と職業倫理

【実習日数】

保育所実習 10日間（9月集中実習）  
施設実習 10日間（2・3月集中実習）

【参考書・参考資料等】

保育実習Ⅰの手引き（保育所・施設）

【評価の方法】

現場評価 70% 提出物30%

※「保育実習Ⅰ」の保育所実習に合格しないと、2年生時の「保育実習Ⅱ（保育所）」は履修できません。

【授業科目名】 保育実習指導 I (保育分野における実務経験のある教員による授業科目)		【担当教員名】 保育科専任教員		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 40回	【単位数】 2単位	【開講学年・時期】 1年・通年
【授業の概要】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習における学びを有意義なものとするために、実習の意義・目的を理解するとともに、実習内容を理解する。</li> <li>・ 観察や記録の仕方、内容などについて学習する。</li> <li>・ 教材や教具の活用の仕方、保育技術を進める上での配慮点などを学習する。</li> </ul>				
【授業の到達目標】				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</li> </ol>				
【授業計画】				
第 1 回： 保育実習 I の意味 ～実習指導オリエンテーション～				
第 2 回： 保育実習の意義と目的				
第 3 回： 保育所の役割と一日の流れ				
第 4 回： 実習記録の書き方 参加実習とは				
第 5 回： 実習記録の書き方 環境構成とは				
第 6 回： 実習記録の書き方 保育者の援助とは				
第 7 回： 保育指導案の作成 保育計画の意義・指導案作成の意義				
第 8 回： 保育指導案の作成 部分保育指導案のねらい・内容				
第 9 回： 保育指導案の作成 保育指導案における援助				
第 10 回： 教材研究と実践スキル (手遊び)				
第 11 回： 教材研究と実践スキル (絵本の読み聞かせ)				
第 12 回： 教材研究と実践スキル (身体表現)				
第 13 回： 教材研究と実践スキル (集団遊び)				
第 14 回： 保育実習の手引きとルーブリック評価について				
第 15 回： 保育所実習での自己課題の立て方				
第 16 回： 保育実習 (保育所) についてオリエンテーション				
第 17 回： 教材研究と実践スキル (パネルシアター)				
第 18 回： 教材研究と実践スキル (パネルシアター)				
第 19 回： 保育現場の講師による講話				
第 20 回： 先輩に学ぶ保育所実習				
第 21 回： 保育実習事前準備 及び 実習後のお礼状の書き方				
第 22 回： 保育実習の振り返り				
第 23 回： 保育実習 I (保育所) 報告会				

- 第24回: 実習報告会振り返り  
第25回: 施設実習の意義と目的  
第26回: 先輩に学ぶ施設実習  
第27回: 児童養護施設について  
第28回: 児童養護施設の見学  
第29回: 乳児院について  
第30回: 児童発達支援施設について  
第31回: 障害者施設について  
第32回: 障害者施設の見学  
第33回: 施設実習の実習記録の書き方  
第34回: 施設職員の方による講話  
第35回: 施設実習の手引きとルーブリック評価について  
第36回: 施設実習での自己課題の立て方  
第37回: 実習先発表 実習施設の理解  
第38回: 施設実習オリエンテーションについて  
第39回: 教材研究 施設でのレクリエーションを考える  
第40回: 実習事前準備 及び 実習課題について

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

保育所・施設幼稚園実習ステップブック 出版社 みらい社 ISBN番号 9784860155179  
実習日誌の書き方 出版社 中央法規 ISBN番号 9784805882184  
保育のマナーと言葉 出版社 わかば社 ISBN番号 9784907270353

【参考書・参考資料等】

保育所保育指針、保育所保育指針解説  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【評価の方法】

- ・授業で課すワークおよび提出物による評価・・・100%